



危機を作り出す 岸田内閣

国会が閉会しました。岸田内閣は歴代自民党内閣が維持してきた枠を超え、戦争準備を推し進めています。専守防衛は名ばかりとなり、敵基地攻撃まで正当化し軍事費（防衛費）を2倍にするなどという憲法無視の暴挙を決定し、そのための費用捻出も不当な税金の流用を重ねるなど無理に無理を重ねながらアメリカの要求にしたがって軍備拡大と中国包囲網の構築に邁進しています。

一方では国民の人権や生活を脅かす悪法を次々強行。入管法、LGBT法、マイナカード強行・保険証廃止、原発延命、財源見通しもなく少子化対策、死の商人のサポート・武器製造企業支援……。数え上げるときりがありません。

岸田内閣の武力一辺倒ぶりは特に危険です。対ロシアでウクライナ支援に勢力を割かれている米国は中国と対立しつつも、今回はブリンケン国務長官を派遣して米中会談を行っています。台湾を含めた中国が一つの国であり、現状は世界が認めている以上、本来中国の国内問題であるはずで、ロシアとクリミアとの関係以上に歴史的な関係ははっきりしています。アメリカはその中国に自ら戦争をしかけて米中関係を悪化させたくはなく、日本をはじめとする同盟国にできるだけその役割を果たさせようとしています。



日本の軍事費増「私が説得した」バイデン米大統領

バイデン米大統領は20日（現地時間）、米カリフォルニア州内での支持者の集会で、「日本は長期にわたり軍事費を増やしてこなかったが、私は日本の指導者に、広島（G7広島サミット）を含めて3回会い、彼を説得した。彼もそうすべきだと確信し、日本は急激に軍事費を増やした」と語りました。（赤旗6月23日）

岸田内閣は今国会で武器製造を国産化し、奨励する補助制度を発足させました。すでに安倍内閣で10年前に武器輸出三原則を廃止し「防衛装備移転」などと判じ物のような用語でごまかして武器輸出解禁の突破口を開いてきましたが、岸田内閣はさらに武器製造を奨励し、民間で間に合わなければ国有化まで意図しています。平和国家のはずの日本製の武器で戦死者がでることになりかねません。

流山 平和のための戦争展

9月2～4日、流山で戦争展の準備が進んでいます。

従来、東葛「平和のための戦争展 とうかつ」として柏市で行われたイベントに流山の個人や団体が参加してきましたが、流山独自に開催したいとの声が上がリ、実行委員会が発足し、準備が進められています。



概要は次のようになっています。

◆日時 9月2日(土)～4日(月)の3日間

◆会場 流山市生涯学習センター（エルズ）

多目的ホール及び第二ギャラリー など

◆講演 石山久男氏

歴史教育者協議会の委員長や川崎市で高校の社会科教師を勤められ、教科書検定の不当さを訴えて戦い続けている方です。歴史を研究し教える中で「戦争はやめさせることができる」と日本国憲法九条の大切さを解き明かすお話をいただけたと思います。



◆戦争体験を語る

東京大空襲、旧満州からの命がけの引き上げ、戦後の悲惨な生活の実態など、戦争というものの実態をいろいろな事実の体験から語り伝える貴重なお話です。

◆展示

戦争体験を語っていただく山本鉦太郎さん所有の戦争遺物を中心とした戦争を伝える品々。東京大空襲や広島の実爆投下のパネルなど

◆歌

長崎で被爆し下半身不随の体で、核兵器廃絶を訴え続けた渡辺千恵子さんの物語を柱とした組曲を、この曲を演奏するために結成された合唱団が力強く歌います。

原爆犠牲者はもうわたしたちだけでたくさんです。世界の皆さま、原水爆をどうかみんなの力でやめさせてください。そしてわたしたちがほんとうに心から、生きていてよかったという日が一日も早く実現できますよう、お願いいたします。

第二回原水禁世界大会（長崎）での渡辺千恵子さんの訴え

プーチン戦争の余波 ロシアからバりに5万人

「プーラビーダ」伊藤千尋より
バリ島に住む友人によると、島にはインターナショナルの幼稚園が五つあり、いずれもこの一年、ロシア人の子が大量に入園したといいます。昨年一年間に来島したロシア人は5万8千人、その8割がウクライナとの戦争のため。プーチン政権が予備兵の招集を発令した昨年9月以降の入国です。招集されるのを避けるために家族連れで東南アジアまで逃げてきたのだとみられます。



この国ではロシア人は到着時に空港で33ドル（約4500円）を払えば30日滞在できます。さらに30日へ延長ができます。さらに30日延長もできます。でも、幼稚園に入れるくらいですから長期にわたって滞在するのでしょうか。ほとんどは期限が切れても住みつき、不法滞在しています。友人は「園児の半数近くがロシア人になり、子供の会話はロシア語になってしまっていて……」と苦笑します。深刻なのはロシア人の子は暴力的に相手を威圧することが多く、幼稚園が荒れてきたことです。（ロシア社会ではびこる暴力が子供の態度に反映するのでは）と友人は推測します。大人のロシア人も宗教の伝統を汚し、交通法規を守らないと問題になっています。戦争は嫌だ侵略戦争に加担したくないと国外に逃げる気持ちはよくわかります。人道上も認められるべきです。ベトナム戦争の際にも日本にいた米兵が戦争に行くのを拒んで脱走したことがありました。徴兵忌避で他国に移住するのはいいけれど、行った社会を乱すのはよくありません。

6月5日付平和新聞

イスラム教の国インドネシアでバリ島はヒンドゥー教徒



が中心の島です。人々は敬虔なヒンドゥー教の信者で、今も朝夕日常的に宗教儀式が共同体で営まれ、争いを好まない穏やかな人々で有名であり、神々の島、アジアの楽園などと言われる地域に異変が起こっています。伊

藤千尋氏は世界を回って平和への動きを伝えているジャーナリスト。ピースボートの案内人として各地を案内しており、今回バりに立ち寄った時のレポートです。

ロシアのウクライナ侵略で大量の難民が欧州だけでなくアジアにまでこれほど大きな影響をもたらしているとは驚きです。

ロシアで不可解な内乱？

ワグネルのプリゴジン亡命か

世界から非難されているウクライナ侵略の急先鋒となってきた民間軍事会社ワグネルが、ロシア政府の支援が足りない、武器弾薬をもっと回せ、と軍部を批判。政府が言うこと聞かないのならモスクワに攻め入ると6月23日武装蜂起を呼び掛けて行軍をはじめたため、慌てたプーチン大統領が「反乱だ、処罰する」と声明。ワグネルの舞台を正規軍の組織に組み込むという。ウクライナ侵略を支援してきたベラルーシのルカシェンコ大統領の仲介で中止して引き返したとのこと。ワグネルの反乱などと報道されている。



しかしその後プリゴジン氏本人も処罰どころか、何らおとがめなし、ワグネルの戦闘員も罪を問われなと政府声明、プリゴジン氏はベラルーシに出国する（亡命？）などと伝えられる。

飲食業から近づいてプーチンのお気に入りになったというプリゴジンという人物、アフリカの鉱山開発の警備請負などで民間軍事会社を作り、豊富な資金を持ち様々な内戦に介入してロシア・プーチン政権の私兵として謀略を続けてきた彼が「政権打倒」のつもりではなかったのべたというが、武装蜂起を呼び掛け、決行しながらこの奇妙な結末には世界が首をかしげる。ロシアにはこうした民間軍事会社が40くらいあるという！統治能力に疑問が沸く。

反乱軍が知れ渡り、歓迎までされたのちこれまでの情報統制がそのまま続けられだろうか。現政権の統治能力に疑問・不安を持ったロシア国民がどう動くのだろう。

マイナカード混乱

看板のはずのデジタル化が連日のようにエラー続きます。岸田総理大臣は、ことしの秋までをめどに、カードの取得者向けの専用サイトで閲覧可能な、すべてのデータを総点検することなどを指示しました。しかし実務を担う自治体からは悲鳴が上がり、小池都知事も「と秋までには厳しい」と表明。膨大な作業を強いられる労働者の「働き方改革」はどうなっちゃうの？ 医療関係者にも不安が広がり延期の要求が強く出ている。保険証廃止は停止しないと命に係わる！

「九条の会・流山」宣伝と署名

◆7月9日(金) 15:30~16:30

~~~~~

カンパはこちらの郵便振替口座へ

00130-5-464735 口座名 九条の会・流山